

おおもとむねただじんじゃほんでん はいでん しゃむしよ きゅうみけどの おふだしよ きゅうみまもりどの
大元宗忠神社本殿、拝殿、社務所（旧神饌殿）、御札所（旧神札殿）、
はいでんきたかいろう はいでんみなみかいろう きょうそきねんかん ぶどうかん
拝殿北回廊、拝殿南回廊、教祖記念館（旧布教所兼主屋）、武道館（旧
大教会所）、^{ながやもん もん みずがき}長屋門、門及び瑞垣 10棟

(1) 所在地 岡山市北区上中野

(2) 所有者 ^{くろすみ}黒住教

(3) 概要

大元宗忠神社は、岡山駅から南西へ約 2.7 km 離れた市街地の一角にある。敷地は東西 100m、南北 170m ほどあり、東を正面とする。黒住教教祖黒住宗忠が生涯を過ごし、黒住教立教の地として今なお信仰が厚い霊地である。教祖宗忠は安永 9（1780）年黒住家の三男として生まれた。

本殿は、江戸時代から黒住家が居住していた場所に、明治 18（1885）年建立。木造平屋建、三間社の入母屋造。棟梁は香川平太郎。伝統的な神社建築の形式を持つ。昭和 39（1964）年に屋根を檜皮葺から銅板葺に改修したのを除けば大きな修理もなく当初の姿をとどめ、当時の技術の高さが感じられる。伝統的な彫刻や^{かざりかなぐ}鋳金具で荘厳し、細部まで丁寧なつくりの上質な本殿。近代岡山の優れた宗教建築として重要。

拝殿は本殿と同時期に建立。棟梁は香川平太郎。屋根の形式は吉備津神社本殿に類似した^{ひよくいりちやづくり}比翼入母屋造であり、華やかかつ独特の外観を備えている。なお、昭和 20 年岡山空襲で被災し、棟木や垂木の一部にその痕跡が残されている。拝殿もまた近代岡山の優れた宗教建築であり、近代宗教や戦争の歴史を伝える建物としても重要。

社務所・御札所・拝殿北回廊・拝殿南回廊は拝殿と同年代の建築。棟梁は香川平太郎。社務所・御札所は入母屋造で銅板葺。拝殿と同時期に改修が行われている。拝殿を中心に北は拝殿北回廊で社務所と、南は拝殿南回廊で御札所と繋いだ左右対称の特異な構成。近代岡山の優れた宗教建築。

教祖記念館は嘉永元（1848）年建築。棟梁は香川藤吉。入母屋造で茅葺。嘉永元（1848）年に布教所兼住宅として竣工。元は現本殿の場所にあったが、社殿建築工事のため、明治 15（1882）年現在地へ移築された。増改築や移築により当初の住居としての姿は不明だが、御神前や教祖宗忠が晩年居住したお居間は当初のままと伝わる。江戸後期に開かれ、明治政府が公認した教派神道である黒住教の記念碑的な建物。近世から近代にかけての岡山の宗教建築を伝える重要な建物。

武道館は、明治 32（1899）年、大教会所として建築された。入母屋造で棧瓦葺。かつての布教の中心道場。棟梁は武田伊八郎。昭和 21（19

46)年の南海地震で建物が傾き、平成16(2004)年耐震補強工事が行われ屋根が本瓦葺から棧瓦葺に替えられた。庇を設けた急こう配の屋根は美しさと迫力があり、旧大教殿の格式のある空間は道場としてふさわしい。木造トラスを用いて200畳に及ぶ無柱空間を実現した、市内でも希少な大型の木造建築。並び立つ神社建築と共に近代岡山の優れた宗教建築。

長屋門は、教祖記念館(旧布教所兼主屋)の正門となる堅実なつくり。屋根瓦や柱の風化具合等から、教祖記念館と同時期の建築と推定される。元は黒住家の門としてあり、大元宗忠神社の建造物群の中では最も古く位置付けられる。改修されながら現在に至るが、門部は当初のままと想定され、教祖記念館と同様に、教祖宗忠の質素で堅実な暮らしぶりがうかがえる。黒住家ゆかりの建物であると同時に、近世から近代にかけての岡山の歴史的景観を伝える重要な建物。

門及び瑞垣は本殿を囲う。改修年代や内容についての記録はないが、本殿と同時期と推定される。本殿を区画する門は控えめながらも銚金具や彫刻類で格調高く整えられ、本殿と同じ意匠を施すなど、全体の調和が図られている。また、瑞垣には洋風の意匠が取り入れられており、明治期の建築を感じさせる。伝統的な建築様式を基調としながら、端正に整えられた質の高い建築であり、歴史的景観を遺す貴重な建物。

(4) 登録基準

一 国土の歴史的景観に寄与しているもの

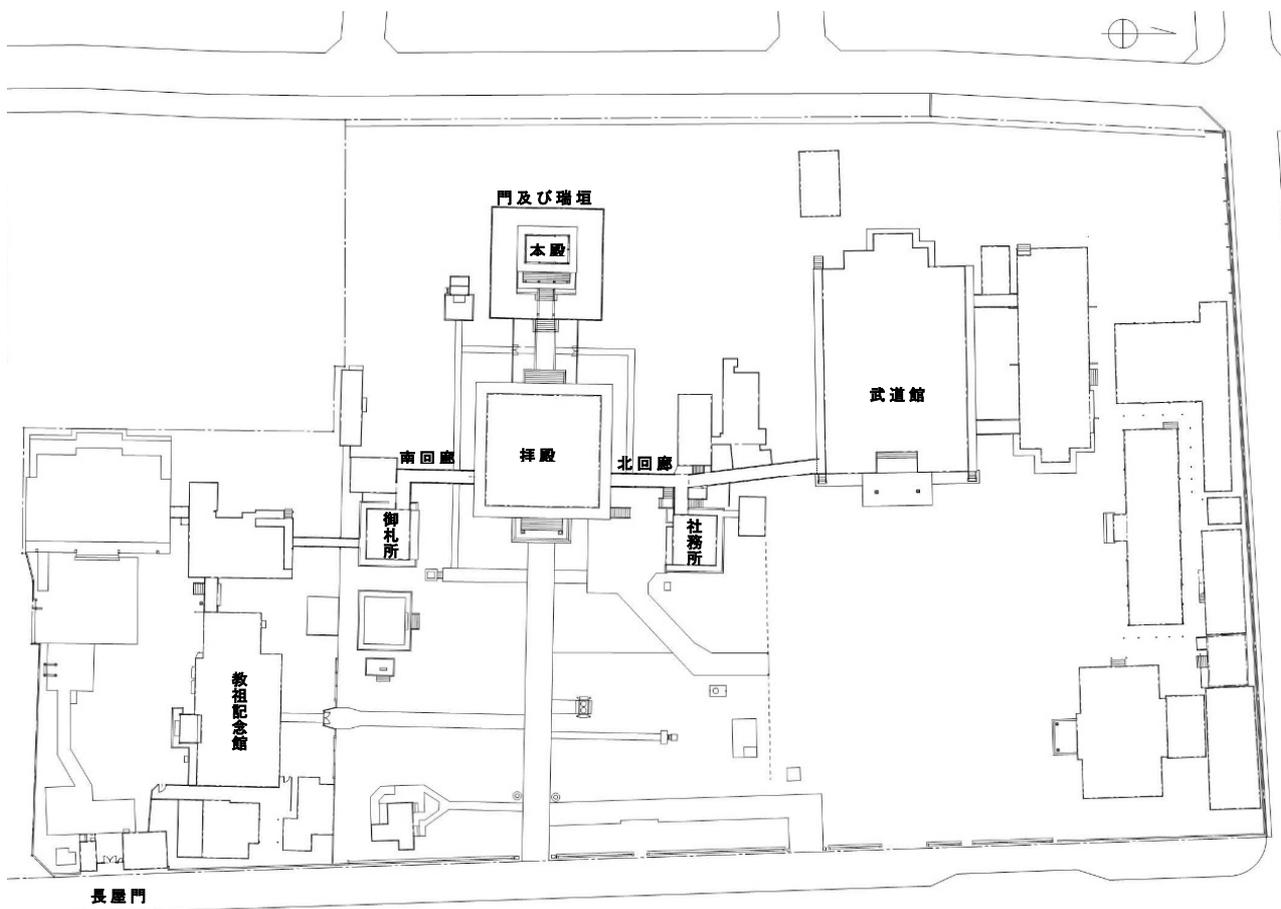
拝殿・社務所(旧神饌所)・御札所(旧神札殿)・拝殿北回廊・拝殿南回廊・長屋門・門及び瑞垣

二 造形の規範となっているもの

本殿・教祖記念館(旧布教所兼主屋)・武道館(旧大教会所)



位置図（おokayama全県統合型 GIS より）



配置図

【用語解説】

- ・ 拜殿（はいでん）：祭礼に際して祭員が着座したり礼拝するための殿舎（出典1）
- ・ 比翼入母屋造（ひよくいりもやづくり）：日本における神社建築様式の一つ。2棟の入母屋造りを1つに結合した屋根の形で、吉備津神社本殿（国宝）が代表例。

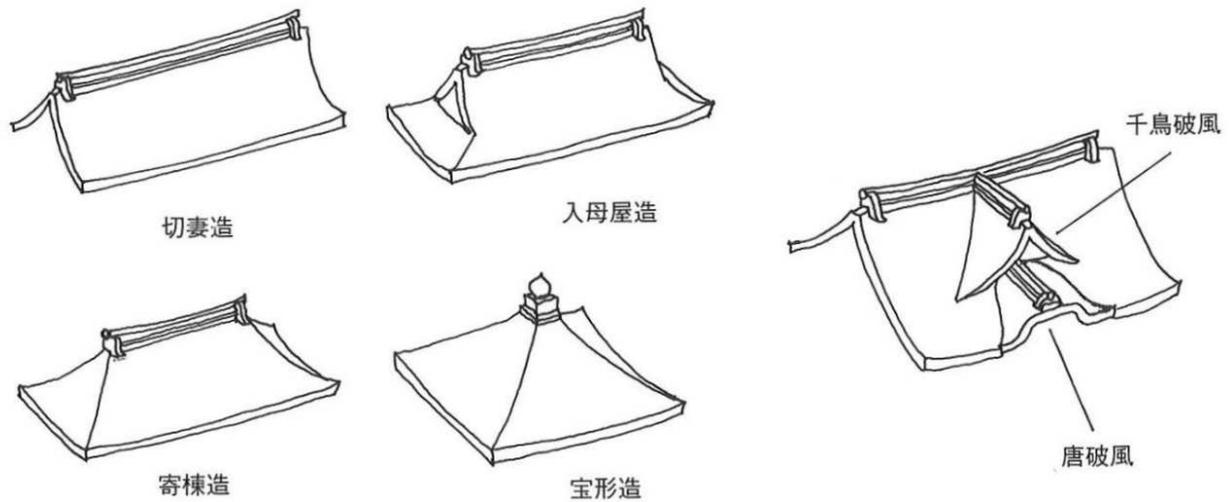


図1 屋根の形状(出典2)

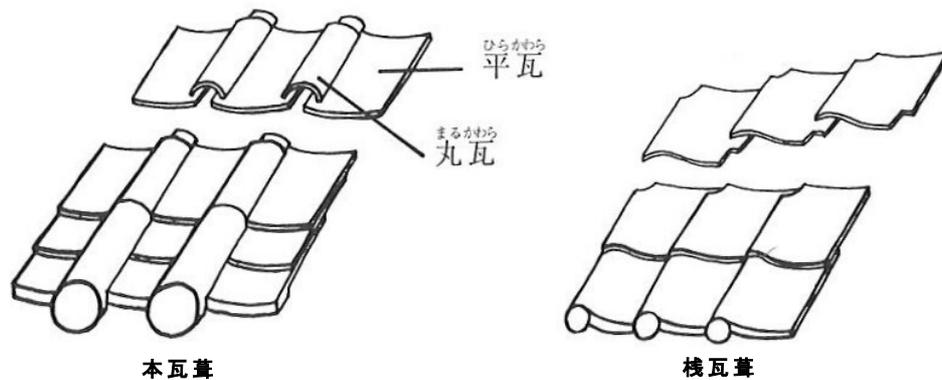


図2 瓦の葺き方(出典2)

出典1 彰国社編 1993 『建築大辞典第2版』 彰国社

出典2 文化庁歴史的建造物調査研究会編著 1994 『建物の見方・調べ方 江戸時代の寺院と神社』 きょうせい



① 本殿



② 拝殿



③ 社務所



④ 御札所



⑤ 北回廊



⑥ 南回廊



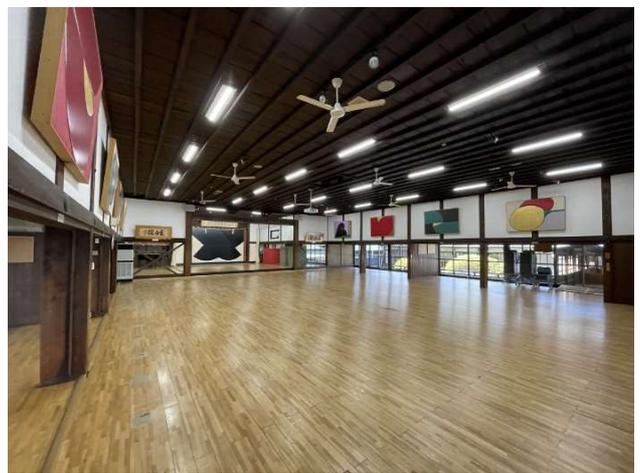
⑦ 教祖記念館



⑧ 教祖記念館 内部



⑨ 武道館



⑩ 武道館 内部



⑪ 長屋門



⑫ 門及び瑞垣